



⑫

「NPO法人ウィッグリング・ジャパン」は、がんの治療を終えた女性から使用していたウィッグ(かつら)を寄付として受け取り、抗がん剤の副作用に悩む女性患者にレンタルする事業を行っています。2010年に活動を始め、これまでのレンタル会員数は500人を超え、提供されたウィッグは千個以上になりました。

日本では、毎年40万人以上の女性のがんを発症していると言われていますが、抗がん剤の副作用として脱毛する場合が多く、外見に自信を無くしてしまう方が多いと言われています。

ただでさえ、精神的に負担の大きいがん闘病中の女性が、人目を気にして自宅や病院にこもりがちになると気分転換すら難しくなると

ウィッグリング・ジャパン

事務所＝福岡市中央区▽電話番号＝092(725)6623
メールアドレス＝japan@wig-ring.info

がん患者支えるリレー

しまいます。その解消に役立つ医療用ウィッグの価格は20万円近くするものもあり、治療費や入院費などを抱える患者や家族にとっては、経済的な負担も大きいのが現実です。

活動のきっかけは、代表の上田あい子さん(41)の幼なじみの女性が、乳がんを発症したことでした。これからの治療で髪の毛が抜けてしまうことととも落ちこんでいた彼

女に「何か自分にできることはないか」と悩んでいたところ、ちょうど別の知人ががんを克服したと知りました。その知人からウィッグを借りて友人に届けたところ、非常に喜ばれたそうです。

ウィッグのレンタルにニーズがあるのではないかと感じ、がん患者にヒアリングして回っていた上田さんは、後に活動のキーパーソンとなる満安諏美さん(70)と出会います。がんの治療で左の肺と左乳房を失い、30年以上、

患者向けの講演を続けていました。現在はウィッグリング・ジャパンに理事スタッフとして加わっており、同じ病気に苦しんだ体験がある満安さんに、当事者は安心して、家族にも打ち明けられなかったような病気に関する不安や悩みを相談できるので

これまでウィッグを必要としている当事者に出会うため、スタッフが病院へ足を運

び説明して回るか、新聞やTV、ラジオなどのマスメディアを通じて呼びかけていました。15年12月からは新しいチャレンジを始めました。活動を紹介します申込書一体型のチラシと、病院の受付に置くサイズの卓上カレンダーを制作し、全国450カ所の「がん診療連携拠点病院」「地域がん診療病院」に送付することにしました。当事者は入院している病院内や周辺でサ

ンビスを知る機会が多いという。医師や看護師などの医療従事者からも「患者自身が問い合わせることができるように、病院内にウィッグレンタルのサービスを知るツールがほしい」という声があったため

原則毎週月曜掲載

「いいね」数は1388件(3日現在)と、資金だけでなく、多くの人の応援と共感を集めました。がん治療で闘う女性たちの苦しみを、社会問題として広く啓発できたことが分かります。

このほか毎月、専門医を招いてがんについて学ぶカフェを開くなど啓発活動に取り組みウィッグリング・ジャパン。「あなたが誰かを、誰かがあなたを、今日を支えるチカラになる」というキャッチコピーの通り、ウィッグを通じて名も知らぬ誰かと支え励ましていきます。(仮認定NPO法人「アカツキ」代表理事・永田賢介)

ウィッグリング・ジャパンの「カフェで学ぼうがんのこと」が12月午後3時半から、福岡市・天神の西日本新聞会館13階である。テーマは「リアンディング(CF)」を活用し、1カ月で66万800円を集めました。CFを紹介するサイトのフェイスブックページが電話で申し込む。



寄付されたウィッグを試着する女性患者(左)